

平成29年度 首都直下地震防災訓練概要

関東地方整備局では、一層の災害対応力の向上のため、
11月10日(金)に首都直下地震を想定した実動訓練を防災関係機関と連携して実施しました。

訓練目的

- 首都直下地震の発生に備え救命救急活動や緊急支援物資の輸送など円滑な緊急活動を支援するため、道路啓開・水路啓開・航路啓開や大規模浸水地域排水などを実施し、実動訓練を通じてオペレーションの機能性、有効性を確認し、より一層の災害対策能力の向上を図る。
- また、訓練を通じ関係機関との連携を深めるとともに、職員の災害対応能力の向上を図る。

訓練概要

1. 日時:平成29年11月10日(金)

2. 訓練会場:

- ① 本局(さいたま庁舎、横浜庁舎)
- ② 荒川ロックゲート
- ③ 大師河原河川防災ステーション
- ④ 東扇島地区基幹的広域防災拠点
- ⑤ 板橋トラックターミナル
- ⑥ 関東技術事務所
- ⑦ 国土交通大学校
- ⑧ 日本大学 大宮キャンパス
- ⑨ 足柄SA、谷田部東PA、酒々井PA
- ⑩ 有馬ダム(埼玉県飯能市)

3. 主催:国土交通省 関東地方整備局

4. 参加機関:国・地方公共団体・公共機関等
計30機関4団体 約700名参加



本部会議訓練

○河川及び道路などの直轄施設の被災状況の報告を行うとともに、テレビ会議により、責任啓開事務所、重大被災支部、東京都及び陸上自衛隊と被害報告や支援要請などについて確認を行った。



本部会議



本部長指示

大規模浸水地域排水訓練

○江東デルタゼロメートル地帯の大規模な浸水被害に対応するため、関東地方整備局の排水ポンプ車等の災害対策車両により排水作業を実施した。
○大規模な浸水被害の詳細状況を把握するためUAVによる被災状況調査訓練を実施した。



排水ポンプ車の配置



排水活動の実施

緊急支援物資輸送訓練

○道路、河川、港湾が相互に連携し、緊急用河川敷道路などの河川防災施設を活用した、広域輸送基地(板橋トラックターミナル)までの緊急支援物資輸送訓練を実施した。



支援物資の荷卸し



緊急用河川敷道路を活用した物資輸送

道路啓開訓練

- 平成28年6月に策定された「首都直下地震道路啓開計画(改訂版)」に基づき、放置車両の移動、路面段差解消等の訓練を実施した。
- また、UAV (ドローン)による被災状況調査、電力事業者と連携した倒壊電柱の移動訓練を実施した。



航路啓開訓練

- 平成27年4月に策定された「港湾における首都直下地震発生時の震後行動計画」に基づき、実動訓練を実施した。
- ヘリコプターによる緊急物資航空輸送訓練を実施した。



進出本部対応訓練

- 進出本部である関東技術事務所、国土交通大学校、日本大学大宮キャンパスにおいて、TEC進出本部の派遣要員による進出本部の立上げを実施した。



TEC-FORCE進出訓練

○近接地整である、東北地整、北陸地整、中部地整の各TEC-FORCE隊員が、広域進出拠点または進出本部に参集した。



北陸地整(日大大宮キャンパスへの進出)



中部地整(足柄SAからのTV会議)

その他

■TEC-FORCE総合司令部対応訓練

○東北地整、北陸地整、中部地整のTEC-FORCE隊長が関東地方整備局TEC-FORCE総合司令部に参集し、各地整のTEC-FORCE隊員との情報連絡を実施した。



TEC-FORCE総合司令部への参集

■燃料供給対応訓練

○大規模浸水地域の排水活動に必要な燃料を輸送し、仮給油拠点を設置及び排水ポンプ車への燃料供給訓練を実施した。



仮給油拠点の設置(荒川IRG)

■大規模土砂災害緊急調査訓練

○土砂崩れに伴う河動閉塞箇所(天然ダム)について、防災ヘリにより緊急調査を実施した。
○また、災害対策本部室への映像・音声による報告を実施した。



ヘリによる調査結果の報告(TV会議)

■水のう設置訓練

○木造密集地域の火災を想定し、河川水を消火用水として確保するため、水のうによる簡易水槽を設置した。



水のうの設置(荒川IRG)